

本教教人が入賞

万国博のシンボルマーク



大高氏

昭和四十五年大阪で開催される日本万国博覧会のシンボルマークに、教人であるグラフィック・デザイナー大高猛氏(39・御津大・川棚分・後継者)が見事に入賞し、その表彰式が四月二十二日大阪の住友銀行本店で行なわれた。

シンボルマークの選考には、種々の問題があり全国に話題をまいていたが、日本万国博覧会協会の日本の代表的な商業美術家、グラフィック・デザイナーら十五人と二団体を指名し、寄せられた五十七点から、さる四月四日選考し、同協会のイメージにあつた、大高氏(大阪市福島区上福島中二の九〇、大高デザイン・ア

ソシエツト代表者)の作品が選ばれて落着いた。

このシンボルマークは桜の花片五枚で円形をつくりマークの下に日本万国博の略称である「JEXPO'70」の文字を配している。世界の人が親しめる日本的な作品である。また五十七点の作品中、選考されて最後に残つた二点の中から選ばれたのであるが、この二点とも大高氏の作品であつたことは、いかに大高氏がデザイナーとして優秀であるかがうかがわれる。

大高氏は幼少のころ病弱であ

つた。昭和二十六年に結核性リンパセン炎を病み、これを動機に、同年五月から百十九期生として修養科入学。終了後検定講習会を受講し教員資格検定に合格。受講中に健康を得て身体に対して自信をつけ、デザイナーとして歩むことを決心した。この健康を得たことにより、このたびの

入賞につながつた訳であるが、その陰には母親たづさん(川棚分教会長)の台となる熱心な信仰があつた。

作品の制作にあたり昨年十二月から構想を練つていたが、まとまらず、年祭前であるが年祭参拝をかねて、おちばに帰り参拝、頭を空にして帰宅後、日本の象徴であるサクラと富士山を

中心に制作にかり六六提出。丸で繪一したためずらしいサクラのデザインが見事に日本万国博覧会選考委員のイメージになつて入賞し、四月二十二日大阪の住友銀行本店で表彰式が行なわれた。近く行なわれる万国博のシンボルポスター募集にも参加する予定である。

大高氏は検定講習終了後デザイナーグループをつくり、三十一年日本商業美術会コンクール、三十七年日本宣伝美術展で特選、と数々の業績があるが、中でもニューヨークで開かれた世界的な「タイポグラフィ」(20世紀の活字コンクール)に入選で一躍デザイナーとして名を売つた。